



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2018年5月1日

5月号・第196号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



松茸山作業終了

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	わいわい桜祭り・報告	9
Monthly Repo.ならやま	2	4月・月例研修会・報告	10
里山の今	3・4	癒しの散歩道&ならやま茶論	11
字遊字感	5	ならやまプロジェクト	12
私のふるさと	6	仲間入りしました	13
4月・自然教室チームだより	7	行事案内&行事予告	14
新人歓迎会・報告	8	幹事会報告・編集後記	15

壮春力歩

会長 鈴木 末一

◆UNDB-J 認定連携事業第 12 弾に認定◇

新入会員が増えましたので、会の歩みに少々触れておきたいと思います。

2007 年の秋、約半世紀ぶりに「ならやま」の西側を走る JR のトンネルを潜り抜けた。目の前に広がる情景は、子どものころから脳裏に焼き付いているものとは全く異なり、想像以上に荒涼殺伐としていた。人の手が入らなければ、こんなにまで荒れ果ててしまうものかと思った。

サイクリングロードとは名ばかりで、人通りはなさそうだ。Uターンしようとする、笹藪の横から人の声が聞こえてきた。何をしているのだろうかと思ったが、そのまま帰宅した。

約一か月後、先日のことが少し気になり、再び「ならやま」へ出かけた。「景観形成整備事業ボランティア活動・奈良県」という表示があった。先日の人たちは、ボランティアグループの方たちだと判った。その後も何回か出向いたが、高さ 3~4m の笹藪などに覆われたままであり、1 か所だけ整備途中の畑があるが、サイクリングロードを東進していく気にはなれなかった。

定年後の 2 度目の勤務も終え悠々自適もどきの生活を続けていた 2008 年暮れ、「ならやま」の状況が少し気になり、ネット検索でグループについての予備知識を多少仕込んで出かけた。里地での畑整備が少しずつ進められていた。メンバーの方に挨拶をし、活動の様子などをお聞きした。

日本の原風景である里山林の情景を蘇らせようとする気概に満ち溢れる方々でした。その開拓者魂に共感し、即刻入会を申し出た。

それから 10 年。その間、景観形成についての確固たるコンセプトと共通理解の大切さを常に確認し合いながら、活動が進められてきた。

まさしく苦節 10 年、里山里地ともに整備保全の進展により、生物多様性復活の兆しが、年を追うごとに確かなものとなっていった。今日までに

同定(生物の分類上の所属や名称を決定すること)することができる昆虫が約 600 種、植物が 300 種にのぼる。他の生物の同定も今後の課題である。

「ならやまプロジェクト」と命名した活動の 10 年間だ。劣化している生物多様性を回復・進化させる景観整備を進め、生物多様性に配慮し、保全に重点を置いた「保全的自然保護」活動を推進してきた。例えば、樹木調査は里山林 5ha 余を 30 分割し、全木調査を実施。群落特性をまとめた台帳を作成し、2010 年に生物調査の報告書「ならやまの四季」を作成した。また、「遺伝子汚染」の心配のない環境を取り戻すことにも力を注いだ。ニッポンバラタナゴの育種池として、近畿大学農学部環境管理学科保全生態学研究室の要請を受け、2011 年から保全育種に取り組み、軌道に乗りつつある。こうした活動の歩みをまとめ、国連「生物多様性の 10 年」日本委員会が主催する生物多様性アクション大賞 2016 年に応募した結果、入賞することができた。今後は、「保全的自然保護」から、保全した自然から新たな機能・価値を生み出す「自然再生・創出」へと進めたいと考えている。

今年 3 月、環境省並びに国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) から認定連携事業として認定された。



認定のポイント(取組の重要性)は、自然観察、里山整備、文化行事、環境教育など多彩

な活動を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用について取り組む活動であること。また、対象を青少年だけでなく、保護者や一般市民へと拡大し、相互に共有体験できるステージを提供し、環境問題への意識高揚と豊かな発想力の涵養、そして、里山再生保全から里山機能創生活動へとスキルアップを図っていることが評価された。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

3月22日(木) 活動 曇り 90名

新入会員歓迎会。19名には活動を長く続けてほしいものだ。焼きそばやバーベキュー、その他お

でんまでが配膳台に見える。最後には湯がきたてのソバまでが・・・。食後には各



Gごとにオリエンテーリングが、また国連生物多様性10年委員会の連携事業認定の連絡が入る。里山Gは天平祭準備などを、エコGはエンドウの蔓の誘引を、景観Gはタケノコ掘りを行う。また、ビオ班は池の整備、花班は山野草園の冬囲い撤去、そしてパトGはパトロールと階段補修に取り組む。

3月29日(木) 活動 晴れ 71名+11名

桜も満開になり、タケノコもたくさん採れるようになる。テント

の屋根の完成が待たれる。また、豚汁の提供も今年度最後。打ち合わせでは来週の



協働作業や今週土曜日に行われる「佐保川わいわい桜祭り」への参加要請の件などが中心になる。里山Gはマツタケの植菌手伝いと薪棚の製作など、エコGは野菜の畝づくり、そして景観Gはマツタケの植菌手伝いと竹林整備を実施。その他ビオ班は池づくりと備品整備、花班は山野草園の草取り・施肥、そしてパトGは2コースパトロールと保護植物観察路のテープ張替えに取り組む。

4月5日(木) 活動 晴れ 76名

新年度だ。野菜・花などの準備に加え、環境整備や施設・設備の修繕、その他イベントに向けて

の取り組みにも熱が入る。特にマツタケの植菌作業が協働作業で行われた他、テントの屋根づくりも佳境を迎える。新入会員1名。里山Gはシイタケの菌打ちとテントの屋根づくり、エコGは野菜のマルチ処理や畝づくり、そして景観Gはタケノコ掘りに出る。その他ビオ班は水生生物調査、花班は棚づくりと看板立て、そしてパトGは1コースパトロールとA地区の整備に汗を流す。

4月12日(木) 活動 晴れ 89名

タケノコ三昧の一日。圧巻は昼食。タケノコご飯は勿論のこと、てんぷらやすまし汁と参加者は十分堪能したよう

だ。賄いの担当者のご苦労に頭が下がる。新入会員1名。里山Gはマツ



タケの植菌とテントの屋根の作製など、エコGはナスビなどの植え替えや定植。そして景観Gはマツタケの植菌の他、竹林整備を行う。またビオ班はレンコン池や畑の整備、花班は山野草園の草取りや施肥、そしてパトGはA地区の整備や3コースのパトロールの他観察会を行う。

4月19日(木) 活動 晴れ 89名+5名

25度を超え、暑い日になったが、終日忙しい。夏に向けての準備が一層慌ただしくなった。終礼では実りの森の養蜂箱にミツバチが入った、とのうれしい知らせがもたらされる。近大から5名が来訪。池にニッポンバラタナゴの姿が多数見られたとのこと。里山Gは天平祭準備とテント仕上げ

作業を、エコGはイモ類の植え付けや野菜の種まき、景観Gはタケノコ掘りとBCの草刈りを行う。また、ビオ班はハスやスイレン池の作



業、花班はミョウガ園の整理や肥やりを、そしてパトGはパトロールとA地区の整備に取り組む。その他果樹チームはブルーベリー園のネットの支柱の準備を行う。

里山グループ

池山 良武



エコファームグループ

鈴木 経子

五月に入ると里山の緑は一層映えてくる。既に濃緑になっている樹種もあるが、多くはまぶしいほどのあさぎ色に、見方によっては透き通って見える。これが五月の爽やかな風と相まってすがすがしい時季を実感させてくれるのである。音や臭いで季節を知るという繊細な方もいるが、目から受け取るそれがいかにも大きいように思う。各地の山里は葛や竹などの侵入で荒れ放題になっていたりと、開発によって痩せ細ったりで里山の痕跡がわずかに公園や緑地として命脈を保っている所も多い。

「里山」の素晴らしさは何といっても景観である。「里山は遠く眺めて豊か、近くに見て和み、中に入って命、新た」と誰かが詠っているが、そのためには今や、よそ者も含めて協力的意識的な努力が欠かせない。

ならやまプロジェクトでは暗黙のうちにこの思いでグループや個人が活動している。遠くからの景観は R24 やならやま大通りから見るかぎり、ややボリュームが不足している。これは数年前から続いたナラ枯れが大きく響いている。やはり遠景は 100 年前後の大木が間近に盛り上がるように映るに越したことはない。近くの景観はどうか。これは、活動 15 年の成果なのだろう。草花、野菜畑、水性動植物の保護など人間生活と自然の接点が足元から広がり、奥行きも繊細さも十分である。さて、中に入ってはどうか。コナラを中心としたブナ科の樹木やマツ科の大樹が激減し、10 年～20 年のこの種の若木も寂しい限りである。目に付くのは覆い被さるササ竹や竹、ヒサカキ(びしゃこ)などの常緑樹、さらには葛、イバラなどが勢いついている。これは里山が荒れる前兆である。及ばずながら笹竹と葛をはじめとする蔓草の蔓延を食い止めたいと努めている。椎茸の原木作りも切り株の藁(ひこばえ)を整えて、最低でも 10 年は掛かる。これも計画的に進めるのが、今の里山グループの努めではないだろうか。

今年の桜は例年より 10 日も早く開花。1 月に低温の日が続き、桜の蕾が冬眠から目覚めたからという。おかげで桜前線は、早いスピードで列島を北上しました。

4 月に入り気温は例年よりも高い日が続いています。先月に定植したジャガイモの芽が、マルチを持ち上げてきたので、そっと手で探りながらマルチに切れ目を入れます。太陽光の当たらない暗闇の中で出た芽は、黄色で花が咲いているかのようです。数日もすれば、しっかりとした緑色になりますが、朝晩冷え込む日が続いていますので、霜の害を受けないか少し心配です。

一方、リニューアルした育苗ハウスでは、カボチャ、スイカ、ズッキーニなどのウリ科の苗が芽を出し日に日に大きく育っています。まもなくポット苗の植え替えに追われるようになります。

ところで、この時期は畑の収穫物はほとんどなく、ほのぼのの市の主役はタケノコです。タケノコ隊の男性陣は、竹藪の中で頭を少しだけ出しているタケノコを探して掘り上げ、ベースキャンプとの間を幾度となく往復しています。中には直径が 20cm 以上もの超大物もあり、汗だくでの作業が続いています。

タケノコのプロフィールを調べますと、「分類」はイネ科、「原産地」は中国、「主な栄養成分」はタンパク質・カリウム・食物繊維・チロシン・ビタミン B1・B2・C・E などで、これらの成分は、免疫向上・代謝促進・疲労回復・美肌効果などに役立つとのこと。カットした時に節の中に白い粉のような物が見られますが、アミノ酸の一種「チロシン」で脳の活性化に良いといわれています。

皆さん、タケノコをいっぱい食べて頑張りようではありませんか。



景観グループ

豊田 正人

里山の今



鳥シリーズ

小田 久美子

◆イソヒヨドリ

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。夏は・・・」と続く。

皆さまがよくご存じの、枕草子の1段目であります。清少納言の春夏秋冬の季節を愛する心を表した作品です。「春はあけぼの」ではなく「春はさくら」としなかったのが斬新な発想で、個性的な美意識を特徴とするものだと物の本に書かれています。その春が、うぐいすの鳴き声と共に、里山にも舞い降りてくれたようで、心もうきうきしてきます。今では春の代名詞「桜」。里山の桜の花も自分たちを見つめてと言わんばかりに花びらを大きく開いておりましたが、今年はいつになく気温が高く、早く花も散ってしまいすっかり葉桜になってしまいました。それでも、いろいろな木々のまばゆいばかりの新緑が私たちを迎えてくれます。そして、私たちに新たなエネルギーを与えてくれています。

景観グループにとっては、花や新緑ばかり見てはいられないのです。足元から足腰の強い新芽がぐいぐいと背丈を伸ばしてきます。気が付けば短い私の足の膝ぐらいまで成長してきます。そのようになれば、いよいよ雑草と対峙しなければなりません。ところが、この相手なかなかの強者で切っても切っても、私たちの苦労をあざ笑うかのようになんてすぐには大きくなっていくのです。きっと草刈り機のエンジン音が、とても心地よく聞こえているのではないかと思ってしまうくらい、へこたれないのです。あと数週間もすると草刈りが始まりますが、「一休みしようか!」や「しっかり水分補給をしてください」の合図のうれしいこと。「やったあ」と独りで心の中で叫びます。この時ばかりは、先輩が女神様のように見えます。これからのシーズン、熱中症に気を付けながら、雑草に負けない雑草魂で力を合わせて景観づくりをしていきます。



5年前『奈良の野鳥物語』の中で「イソヒヨドリ」を担当しました。その後も機会あるごとに記録を継続し、都市鳥研究家の川内博さんに報告しています。《奈良学園・イオン登美ヶ丘・ライフ学園前》といえ、近くにお住まいの会員や奈良学園の出前授業に参加した方などご存知の方も多いエリアですが、そこを歩けばイソヒヨドリの声や姿(時に複数・運が良ければ巣立ち雛たち)に出会えます。3年前からは会費無しの我が町内会のメンバーにもなり、今年も雄が忙しくテリトリーを巡回して良い声を聞かせてくれています。先日久し振りに、橿原公苑定例探鳥会に参加しました。駅前通りでは定番のイソヒヨドリ囀りのお出迎え。囀りながらテリトリーに侵入して来た際に、体を膨らませて対峙する別のみ。近くには鳴かずに静かに♀の姿がありました。どちらかのパートナーを応援しているのでしょうか、それとも両者の力量を観察しているのでしょうか、緊迫した雰囲気漂うその場に残り



「撮影・田中」

たいけど、後ろ髪を引かれる思いを振り切り公苑内へ進むとアオバトの声。木の間隠れにオガタマノキの花と幾つかのアオバトの青い色発見!!何人もの目で探しても若葉と同化した後ろ姿しか見られませんが、下尾筒(尾羽の裏)の独特の模様がよく見えました。どれも枝がかぶってカメラマンさんには残念なひと時でした。深田池では、旅立ち前の婚活に励むカモたちの数も減り、カワウ・サギたちが巣作りや抱卵を始め、最近めったに見られないゴイサギが枯れ木に溶け合って集まっていました。公苑内の冬鳥たちの声も姿もひっそりしていましたが、ランデブー飛行のオオタカペアや、北帰行を急ぐノスリたち、美声を誇るウグイスやスズメ・カラ類の囀りもにぎやかになり、それぞれが「春だよ! ~春だよ!」。3/23。桜も、早過ぎる季節の変わりを告げていました。

字遊 字感

母と娘の一筆箋

桜木 晴代

我が家には夫が作成した『母と娘の一筆箋』という(母・私・娘の三代)A4版の冊子がある。その冊子が生まれる経緯をはじめに記している。

『断捨離』が昨今の巷のテーマ。分かっているけどできないのが私です。モッタナイオバケがムクムクと…。捨てられないとえ包装紙も、空き箱もどんぐりも…。昨年(2012)死去したノーベル平和賞を受賞したワシントン・マータイ女史は『MOTTAINAI!』という言葉を知り、物を大切にすることを世界に広めました。私は家族の冷ややかな目と言葉を浴びるのみ。それでも私の捨てられない習癖が意外にも喜んでもらえることもいくつかありました。一つは高校の同期のお母さんでした。同期の公子さんは目のパッチリした色白の美しい声の持ち主でした。今でも彼女の『冬の星座』の澄んだ歌声が聞こえてきます。よき娘、よき妻、よき母であったらう彼女は、一昨年、ガンで亡くなりました。昔、彼女がくれた弟誕生を喜ぶ葉書を探し出し、友人経由で、彼女のお母さんに届けてもらいました。お母さんは、思いがけない娘との『再会』に泣けて泣けて仕方がなかった、ということでした。他にも50年以上前の葉書や手紙を手渡して驚かれ心から喜ばれたこともあります。この冊子の完成も、私の捨てきれない習癖ゆえに可能となったものです。遠く離れた調布の母とのファックスの日常のやりとりは、いずれできなくなる日が訪れると思うと、絶対に捨てられないと私は思っていたのでした(略)

344ページの中に家族や、好んで訪れた鰻屋や蕎麦屋、趣味の手づくり品などの写真が約500枚掲載されている。家族限定配付とし、子どもと叔母に贈った。子どもたちは、可愛がってくれた祖父母のことや出来事を懐かしみながらアルバムとして活用している。



母はもともと文を書くことが好きな人でもあり、朝に夕に頻りにファックスが届いた。文を書くのが苦手な私も手紙より手軽なので書いては送っていた。その往復書簡を手元に残していたのだ。

母は7年前に86歳で他界し、今、実家では娘夫婦が暮らす。母亡き後、娘との通信は専らメールやかけ放題のケイタイ電話になっている。

ファックス通信としては最後と思われる娘からのファックスが残っていた。

『母と娘の一筆箋』全て読み終わりました。おばあちゃんもお母さんも植物好きなので日付がなくても季節が分かりますね。

電話より経済的なファックスを使っただけの会話がこんな形で生かされたことは本当に素敵なことだと思います。

私は上京してからおばあちゃんが亡くなるまで孝行もせず、ダメな孫であったとは思っていましたが、おばあちゃんのファックスを読み、もっと明らかになり、当時の事を思うと堪らず、本を伏せてしまう事もしばしばでした。

私は自分の夢を実現させるため、家族に迷惑をかけ、家族に支えられてやってきたのだと改めて知ることになり、家族を一層大切に思えるようになりました。私の生活ぶりはおばあちゃんに寂しい思いをさせ、その愚痴の聞き役がお母さんだったのです。お母さんにも申し訳なく、自分が情けないです。

おばあちゃんがいなくなって3年が過ぎた今、こうして冊子を読んでいるとおばあちゃんが近くに感じられて嬉しいです。今年はおばあちゃんが大事にしていた梅の実も沢山なり、生前におばあちゃんを労われなかった分、大切にしていた物だけでも大事にしたいと思います。家族の大切さを改めて感じさせてくれたこの冊子に感謝しています。有難うございます。」(娘の社会人としての第一歩は東京の母との暮らしから始まった。娘のために喜んでお弁当を作っていた母も年と共に気力・知力を低下させ、その姿に戸惑う娘との間に埋め難い感情の齟齬が生じていた。娘同様、私も母に十分なことができなかったと未だに悔やんでいる。)この冊子はわが家の宝物となっている。



ふるさととは二つ

坂東 久平

私は、京都の太秦で生まれました。22年間をここで過ごし、就職して北九州の黒崎（北九州市八幡西区）に行き、ここで18年間を過ごしました。京都の方が長いのですが、人生の密度では黒崎が上回ります。今でもOB会などで黒崎に行きますが、関門トンネルを出て景色を見ると、「帰って来た」と感じます。

さて、一つ目のふるさと「太秦」は、当時、松竹、日活、東宝などの映画会社が時代劇映画の撮影所を置いていました。中学校の通学路には片岡千恵蔵の家がありましたが、千恵蔵に会ったことはありません。

私も映画に出演したことがあります。とはいえ、「きけわだつみのこえ」（1950 東横映画）のエキストラで、学童が教室から飛び出して行くシーンでした。（試写を見ましたが自分の姿を確認できませんでした）

昨年の歴文研修会で太秦に行きましたが、この地は秦氏の根拠地で、秦氏の氏寺・広隆寺があり、国宝の木造弥勒菩薩半跏像（宝冠弥勒）で有名です。



広隆寺のすぐ近くに太秦小学校があり、校歌の一節に「文化の源、太秦の・・・」とありましたが、その時は意味が分からず歌っていたようです。

木嶋神社（蚕ノ社）の元糺の池もとただすに足を浸けて、病

気に罹らないよう願ったものです。

蜂ヶ岡中学校の校区には、嵯峨野、嵐山があり、渡月橋の下流で泳いだり、上流でボートに乗ったりしたことが、懐かしく思い出されます。

二つ目のふるさととは、「黒崎」です。昭和35年（1969年）に同期の仲間と共に工場のある黒崎に向かいました。ちょうど5市合併直前の八幡市で、黒崎駅は随分の田舎で、急行は止まらず、次の折尾駅で降りてバスが迎えに来ているような状態でした。

駅前には、屋台が並び治安も良くない町で、先輩から、ここから先へは行くなと言われる場所がたくさんあったと記憶しています。

その後、町の発展は目覚ましく、デパートも開業し、商店街も活況を呈し、いつか屋台の群もなくなって、JR黒崎駅も博多、小倉に次いで乗降客数が多い駅となりました。

若松と戸畑を結ぶ若戸大橋（627m）が完成し、日本における長大橋の始まりであり、建設当時は東洋一の吊り橋でした。



黒崎での18年間は、人生の中で最も密度の高いものでした。私生活では、結婚をして、3人の子宝に恵まれ、子供たちも自然豊かな地で伸び伸びと育ってくれたと思います。

その後、転勤などで西宮、奈良へと住処が変わり、子供たちには申し訳ない事でした。

仕事は充実し、エコノミックアニマル振りの残業の連続で、家庭サービスは充分ではなかったかと反省しています。

黒崎には、公害で全国的に有名になった洞海湾があり、船が入港すると船底についていた貝が死んで取れてしまうほどお延が激しかったそうです。今は廃水処理が進歩して、海は綺麗になり、車エビの養殖ができるほどになっています。

八幡には、皿倉山（622m）があり、頂上から眺める製鉄所の7色の煙が有名でした。

転勤で、横浜に5年ほどいましたが、やはり関東にはなじみませんでした。ふるさととは良いものです、二つもあるなんて、私は幸せ者ですね。

自然教室だより

4月・春の奈良公園 自然観察会 報告

辻本 信一

平成30年4月3日(火)、昨年と同じこの時期、奈良公園にて桜見物を主とした自然観察会を実施。13名の方に参加していただきました。



【朝の集合】



【ナラノココノエザクラ】

今年、ソメイヨシノの奈良での開花宣言は、例年より10日近く早くなり、昨年と比べ2週間近くも開花が早まりました。おかげで、エドヒガン、コヒガン、シダレザクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、ナラノココノエザクラと、奈良公園の代表的な桜を同時に観察することができ、参加者一同大満足の観察会となりました。



【エドヒガン】



【オオシマザクラ】

浮御堂のある鷺池北側ではハクモクレン、コブシ、シデコブシのモクレン科3種揃い踏み。イヌシデ、イロハモミジ、トウカエデもこの時期かわいい小ぶりの花をいっぱい咲かせ、私たちの目を引きまします。足元を見れば、シハイスミレ、キランソウ、ハナイバナ、ヒメウズ、ノミノフスマの極端なまでに矮小化した野草の花の競演。

春日野園地周辺ではナラノココノエザクラ、東側で紅豊、白妙、八重紅枝垂れの里桜が満開の時を迎え、私たちの目を喜ばせてくれました。そんな中、出会いを楽しみにしていた春日野園地東側高台のコナラの大きな木が伐採され切り株だけになっているのを発見。悲しい気持ちをこらえ、全員がその切り株の上に立ちコナラがこれまで見続けてきた景色をみんなで遠望しコナラへの思いを

馳せました。その後みんなで数えた年輪の数は130を超えておりました。



【コナラの切り株の上で】



【年輪の数えっこ】

最後に昨年は見られなかった満開の東大寺北側の「おかつぱ桜」の前で「ハイポーズ」、記念の写真を撮り、楽しかった観察会を終了しました。



3月・帝塚山小学校アフタースクール 大淵池 自然観察会 実施報告

山本 (美)・桜木

3月20日(火)朝から小雨まじりの天気のもと、大淵池公園にて子ども8名・先方スタッフ3名を対象に傘をさしての実施となりました。

まず、モチツツジの生垣に隠してある人工物(人形・装飾品)を見つけるゲーム。子どもたちは夢中になり全てを探し当ててくれました。次は、立木の木肌やコブなどに紙の目玉を二つ配置し顔を作るゲーム。個性的な顔に一同拍手喝采。

その後は、雨あしが強くなり、スクールに移動。自然工作でそれぞれかわいいクマのペンダントが仕上がりました。



【雨でも楽しく】

5月・新緑のならやま 自然観察会 予告

次回観察会は、5月14日(月)、場所を再度「ならやま」に戻し、新緑のならやまの自然をみんなで楽しみます。集合時間は午前10時。弁当・飲み物持参で「ならやまベースキャンプ」にお集まりください。自然の不思議、魅力いっぱいの観察会をみんなで楽しみましょう！

新入会員歓迎会報告

田代 一行

天気予報が微妙な状況で日々変化して、会員の皆さまも心配されていたことと思います。前日に事務局の青木さまより「3月22日の新入会員歓迎会実施」のメールをいただき安心、当日を迎えました。

私も昨年の新会員で今年はスタッフとなり、いつもより早くならやまのベースキャンプに着き先輩会員に混じりお手伝い。9:00には段取りもほぼ終了。新会員の受付開始、新しい名札と『奈良・人と自然の会』専用キャップを受け取り、新会員は全員着帽、一目で判るよう指示がありました。また重ねて車運転者は飲酒しないよう注意もありました。今日はいつもと違う顔ぶれの会員が多く、大変なにぎわい。その後11:40まで定例活動と新会員へのベースキャンプ内の案内などが行われました。



11:40 ~
いよいよ
歓迎会モ
ードに突
入。まず
鈴木会長
の挨拶、
活動概要

と会則などの説明があり 12:00~懇親会が始まりました。

今年の新会員は昨年途中入会者11名、4月1日付入会予定者19名の合計30名、内、本日の参加者は19名で参加総数は何と既会員と合わせ90名となりました。新会員数は過去最高の人数となり、会の発展に大きなパワーを感じました。新会員はそれぞれ自己紹介や抱負などを語られました。



その後は担当スタッフ、先輩のみなさまで炊き出しが行われました。メニューは焼きそば・バーベキュー(焼き芋、かぼちゃ、椎茸、ウインナー、玉ねぎ、焼き肉など)・おでん・そばクラブのザル



そばなどが提供され、長蛇の列。飲み物はソフトドリンク各種、ビール、

竹筒による燗酒など多くのメニューが用意されました。お代わりも進み1時間くらいでほぼ終了。

その後パネルによる各グループの担当者より詳しく活動内容が紹介され、熱心に聞き入っていました。さらに



クラブ活動、会の行事などが紹介され、会全体の活動内容が理解できたのではないかと思います

す。新会員の方は是非1度は各グループに行かれ、体験をして自分に合った活動エリアを選択してください。また活動を通してこの里山の四季に触れながら、心地良い汗をかき、一緒に楽しく活動していきましょう。くれぐれも無理をせず、明るく、楽しくをモットーに活動に参加してください。

終了前、鈴木会長よりうれしいビックニュースとしてこの『奈良・人と自然の会』が『国連生物多様性10年日本委員会連携事業』に指定されたことが発表されました。大変名誉な指定であり、後日会長より詳しい内容の説明がされると思います。



国連生物多様性の10年日本委員会ロゴマーク

満々開・佐保川わいわい桜祭り

人気 NO.1 の賑わい……

鈴木 末一



第 16 回佐保川わいわい桜祭りは、夏を思わせる陽春の 3 月 31 日(土)に開催されました。今年、休眠期の気温が例年よりも低かった上に、3 月に入って平均気温が逆に 2~3℃高くなり、1 週間から 10 日ほど開花が早まり、満々開となり、そして快晴に恵まれ、人出は近年では最高になりました。



当会からは、5 回目の出店参加をしました。三種の食品バザー“唐揚げ”“焼きそば”“ネギ焼き”と、成と鯉のぼりなどの竹を利用した自然工作で協賛をしました。食品バザーでは、前日下ごしらえのために夕刻まで 6 名の方が奮闘されました。

食品バザーは開店を待ちわびる人たちが、店の前に列をつくるようになり、長蛇の列が途切れることなく続く。他の出店者の方から、あまりの人

気に羨ましがられたりしました。“唐揚げ”“焼きそば”は言うに及ばず、今年初めてのメニュー“ネギ焼き”も予想以上の人気。「おいしい！そだねー」の看板の効果かなとも……。18 名のスタッフの皆さんたちは、それぞれの持ち場で奮戦、時間の経過とともにプロ顔負けの手際よさで調理に励んでいただきました。

特に、焼きそばは、午後の来場者に備えて食材の買い付けにスーパーへ走る忙しさとなるなど、スタッフの皆さまには、ゆっくりと昼食を摂っていただく時間もないほどでした。

一方、自然工作では、多くの女子の小学生たちがチャレンジしてくれました。成の置物では、7 つの部品を木工ボンドで順番に接着していく。見本を見ながら、どの子も手際よく製作に励んでくれました。そして、最後に動眼を付けると、かわいい成の置物が完成です。でき上がった時「やったー」と、思わず声を上げて満面に笑みを浮かべてくれます。

午前中とは打って変わり、お昼過ぎから 5~6



名が一斉に鯉のぼりづくりにチャレンジしてくれるなど、クラフト用の机は満席となりました。吹き流しやお父さん鯉、お母さん鯉、赤ちゃん鯉に鱗を書き上げ、動眼を貼り付けて、支柱の竹棒に順番に通して完成です。

オリジナル作品作りで完成させた時、達成感と成就感に満ち溢れた子どもたちの表情は、いつ見ても癒されるものです。

総勢 18 名もの多数の皆さま方には、一息つく余裕もない状況で奮闘いただき、厚くお礼申し上げます。

4 月度月例研修会 曾爾高原と屏風岩を背景とする 山桜の群生地を訪ねる

太田 和則

今回は「日本で一番美しい村」を宣言した奈良県の東北、三重県境に接する曾爾村を訪れることになった。総員 28 名を乗せたデラックスバスは快晴のもと、奈良商工会議所前 8 時出発。県道 80 号線から針インター経由、国道 369 号線に入り、ファームガーデンを経て曾爾高原に建つ国立青少年自然の家で降車した。

曾爾高原は倶留尊山から亀山を結ぶ尾根の西麓に広がる。秋は銀色に輝くススキの穂で一面覆われることで有名だが、春から夏にかけては青い絨毯が敷かれたような爽快な景色になるそうだ。今日はまだ少し早かったようだ。

亀山峠まで登る組と草原を散策する組とに分かれる。亀山峠からの眺望はすばらしい。住塚山、国見山、兜岳、鎧岳、屏風岩、といった曾爾の山々が連なるさまを眺望できた。曾爾三山の切れ落ちた柱状節理の岩壁は、国の天然記念物に指定されている。マグマが地表で冷えて収縮し、玄武岩や安山岩では五角形の柱状ができるそうだ。

草原散策組は高原中央にある「お亀伝説」が残るお亀池を一回りし、約 1 時間の散策を楽しんだ。

次は、今回のメインとなる**屏風岩公苑**に向かう。青蓮寺川を渡り、30 分ほどで公苑駐車場に着く。心配していた急勾配の坂道は高度差百メートル弱だが、直登で思ったよりシンドイ。悪戦苦闘しながらも全員無事に公苑に着いた。登り切って自信につながった人もいたようだ。

桜の盛りは過ぎていたものの、山桜特有の風情を残して、我々を待っていてくれたようだ。しかしミツバツツジは今が盛りの満開だ。

ビニールシートを敷き、若手に担ぎ上げてもらったビール・酒・焼酎・下村さん寄贈のスパークリングワインなどを前に、古川さんの乾杯の発声で「花見」の宴会が始まる。

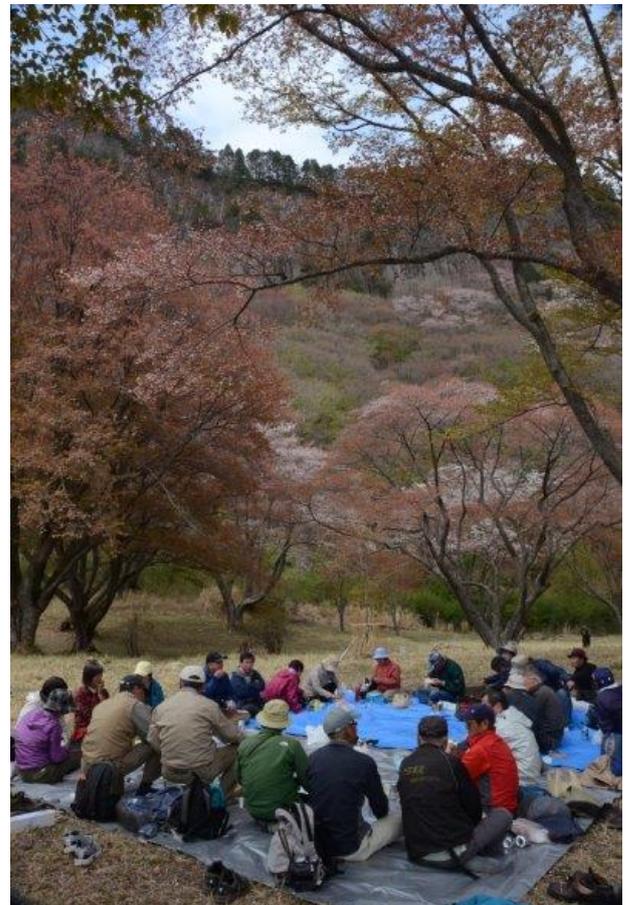
“カンパーイ、ウマ〜イ”。あっという間に時間が経ち、花見もそこそこにはほろ酔い加減で急坂を下る。

桜の花の満開時期は少々過ぎてはいたが、親睦の花は満開・満開であった。“まこて よかとでござんそ” “チェッソ〜”

〈亀山峠から見た曾爾高原〉



〈屏風岩公苑の山桜と宴会〉



皆さん大変お疲れ様でした。大変楽しい研修会でした。

なつやま茶論

「期待の一年生」

竹本 雅昭



榎木 : 痛！！やめて～無理に引き抜くのは。
 ドリル : 旦那、えらい痛がってるよってむちやくちや抜かんといてやって。

翁 : なんでやろな？いつもやったらキューン・キューンと調子えゝのにな。おかしいな。

ドリル : 私も格好よくチャッチャッと済ませたいのに、ほんまに難儀ですわ。ひょっとして私等 2 台使ってるから電力不足かも。

発電機 : なんかチラチラこっち向いて、私の悪口でも言うてんのと違うかいな。いつも通り頑張ってるのに。ハッキリ言うてくれたらえゝのに。

翁 : おかしいなあと思ってたら、ほれこのレバー全開にしたら馬力アップしたで。この人はうるさい音出す割に大人なしいから分からなんだわ。

発電機 : いつも乍ら勝手な言い草には全く呆れるわ、ブツブツ……。

ドリル : どうや榎木さんよ、もう痛ないやろ。だけどよ菌打ちの時はカンカンやられて痛いのと違うんかいな。

榎木 : それが素人の浅ましきやな。調子ようやられると、却って気持ちよくなって、もっともっとえゝ音出そうと言う気になりましてな、木琴にでもなった心持ちですわ。

椎茸菌 : 私達は榎木さんに守られて、全くの無口で禅僧のごとく……そして悟りを得た時には、とっても美味しい傘の花を咲かせますわ。

～終～



癒しの散歩道



春の気まぐれ訪問者

谷川 萬太郎

(1) スミレ色の花香る頃

小さな幸せ青い空に

ほころぶ春の匂いが

眩い若葉に降り注ぐ

明るい陽ざしを背に

喜び飛び交うツバメよ

眼をやれば咲く菜の花の

春風に素敵にダンス

黄色も鮮やか花飾り

春のワルツも軽やかに

(2) 春の装いうらめしく

時には悪戯な心変わり

束の間の桜の華の宴も

春の嵐にその身を散らす

暴れ狂いてあざ笑う

純な心さえ砕け傷つき

変わり果てた憎き雨音

その裏でなく季節の花よ

聞きわけのない姿に

ただ儂さに悲しみ堪えて



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

5月	3 (木) 10 (木) 17 (木) 24 (木) 31 (木)
6月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8:28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8:36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

里山

5/3 「協働作業」 アダプトプログラム

里山林枯死木伐採整理

薪割り・玉切り材運搬

天平祭イベント準備

10 17 自然林内散策路の整備

薪割り・玉切り材運搬

24 31 自然林内散策路の整備

シイタケ本伏せの準備

薪割り・玉切り材運搬



エコファーム

5/3 「協働作業」 アダプトプログラム

茄子、唐辛子、ピーマン、パプリカ、トマト、スイカ、植え付け 苗代管理

10 サツマイモ植え付け、ゴーヤ、ズッキーニ、

オクラ、植え付け 水田耕耘、苗代管理

果樹：柑橘類選定作業

17 枝豆、ゴボウ播種、エンドウ、ソラマメ追

肥/水路整備（取水口 排水口）/苗代管理

24 茄子、唐辛子、トマト支柱立て

インゲン豆（つるなし）播種

31 茄子、唐辛子、トマト追肥/苗代管理

ゴーヤ、ヤーコン、ズッキーニ、オクラ追肥

景観

5/3 「協働作業」 アダプトプログラム

整備：彩りの森周辺の草刈り整備

ビオ：池周辺の整備

花：葉牡丹撤去/千日紅、マリーゴールド種まき

10 整備：彩りの森周辺の草刈り整備

ビオ：池周辺の整備

花：花菖蒲園・シラン草取り

17 整備：彩の森周辺の草刈り整備

ビオ：西池水生生物調査日

花：チューリップ撤去/金盞花植え付け

24 整備：実りの森周辺の草刈り整備

ビオ：池周辺の整備

花：東花壇撤去、土作り

31 整備：実りの森周辺の草刈り整備

ビオ：池周辺の整備

花：ジャーマンアイリス草取り

パトロール

5/3 「協働作業」 アダプトプログラム

赤岳下の野草観察ポイントの整備

10 赤岳下の野草観察エリアの整備

17 観察路の笹刈り、階段補修

24 観察路の笹刈り、階段補修

31 観察路の除草、笹刈り、案内標識の補修

仲間入りしました



浅岡 伸也

今年の3月3日にシニア自然大学校緑組を修了しました。24期の浅岡です。働いてる間は身の周りの自然にほとんど目を向けずにきたので勉強のつもりでシニア自然大学校に入学しましたが、1年はあっという間に過ぎとても理解が進んだとは思えません。ただ自然と触れ合う事は好きなので、ここでの活動の中で楽しみながら知識を身に付けて行ければと思っています。里山の景観づくりや野菜の栽培、蕎麦づくりなど興味のある活動がいっぱいで楽しみです。

石堂 純子

私が、2時間半もかけてこの「奈良・人と自然の会」に来るのは、この平城山の空間がたまらなく心地よくて私の心を和ませてくれるのを感じたからです。小さいときから丹波の自然の中に身を置き、四季折々の変化を感じながら大きくなってきました。そして、家族が自然と関わりながら生活をつくり、共同体の一つの形を私に教えてくれたことを、ここでの活動が思い起こさせてくれ、感動しています。本当に楽しくて仕方ありません。すること全てが自分の家族に繋がっているような感覚を覚えます。これからも、土を触りながら生命の息吹を感じられるように、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

田中 善英

奈良・人と自然の会の会員の方からお誘いをいただき、見学に行ったその日に入会させていただきました。以前から、よく自転車でベースキャンプの前の自転車道を走っており、漠然と良いところだなと感じていました。また、会員の皆さまが活動されているのを見ながら、機会があれば参加したいなと思っていました。今回、入会することができて、非常にうれしく思っています。今後は楽しく、汗をかきながら活動したいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

中村 圭一

昨年度、シニア自然大学校に通う中でこの会の評判を聞いており、さっそく入会させていただきました。私は子供のころから大変な生き物好きで、それが治らないまま大きくなってしまいました。ただ、その割に知らないことだらけなので、植物、動物、鳥、魚、昆虫、糞虫などなど、自然の中で生きているものについて多くの方と語り合い、いろいろ学べることを楽しみにしております。仕事もあるのですが、当会の活動と両立できるようにしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

前田 隆祐

今年シニア自然大学校を修了いたしました24期緑組3班前田です。これからの進路を決めかねていた頃、「奈良・人と自然の会」の教育実習に参加させていただいた時、色々な活動をされていて雰囲気もよく、今までボランティア活動や草木、畑などの作業をした事がなく、教えていただくことが多いと思いますが、早くなれたいと思います。奈良県は自宅から遠方になりますが、できるだけ多く参加し、少しでもお役に立ちたいと思います。よろしくお願いいたします。

宮崎 仁

去年10月12日の教育実習で、体験学習を受けました。その時は、マツタケの菌糸の成長のためには、比較的乾燥した土壌が必要なため、落ち葉や石を取り除く作業をしました。傾斜地で木の根も張っており雨の中の作業は大変でしたが、10年後にマツタケができるという希望を持ってやられていることに感銘を受けました。まだどんな事ができるかわかりませんが、先輩の方々からいろいろ教えていただき、少しでも役にたてるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。





行事案内

「古代吉備の歴史探訪の旅」ご案内

歴文クラブ恒例の研修旅行をご案内します。今回は、デラックスバスで弥生時代に出雲、ヤマトと並んで栄えた岡山県・古代吉備の国を探訪します。

2万年前の氷河期には、瀬戸内海は広大な草原になっており、吉備と讃岐は地続きだった。

弥生時代の吉備は、北九州地区に次いで早い時期に稲作が始まり、多くの人が活動し、独特の文化が発展した。

弥生時代の末期には、備中南部を中心に有力な部族集団が形成され、弥生時代最大規模の楯築弥生墳丘墓を造営した。

吉備地方独特の葬祭文化として、特殊器台・特殊壺があり、吉備の楯築弥生墳丘墓と同時期に大和の箸墓古墳などにも現れている。

古墳時代に、吉備はヤマト王権の影響下に入り、ヤマトに次ぐ勢力を維持して共存関係にあった。備中の足守川流域には、大王陵に匹敵する造山・作山古墳が築かれた。5世紀に、雄略天皇は、国内権力の集中を図る。最大の地域政権である吉備の支配に成功する。

主な訪問先は、赤穂大石神社、吉備津彦を祀る吉備津神社、巨大前方後円墳の先駆けとされる楯築弥生墳丘墓、吉備最大の造山古墳、備中国分寺、ベンカラで栄えた吹屋の里とべんがら館などです。

《実施要領》

1. 実施日：5月22日(火)、23日(水) 一泊
宿泊先：ピュアリティまきび(公立共済)
2. 集合場所：近鉄西大寺駅・南口 8時出発
3. 乗り物：生駒交通デラックス観光バス
4. 費用：25,000円(1泊4食付き)
5. お問い合わせ

歴文事務局 青木 幸子

平城京天平祭春 2018 『ものづくり広場』出展参加

天平祭実行委員会よりの申し出を受け、昨年に引き続き、平城京天平祭春 2018『ものづくり広場』に下記内容にて出展参加いたします。

1. 日時：5月4日(金)・5日(土)10～16時半
2. 場所：平城宮跡内特設会場
3. 出品：楽しい自然工作(ブンブンゴマ、クマのペンダント、ジュズダマプレスレット) 1日各100セット

『ものづくり広場』では、平城京天平祭にたくさんの子供たちや大人に来ていただき、ものづくりの大切さ・楽しさを体験し、学んでいただきます。当会では、趣旨に賛同し、子供たちの創造力を育み、お父さん・お母さんと一緒にものづくりを楽しんでもらえる出展をめざします。是非皆さんもご家族と一緒にどうぞお越しください。

6月ならやま活動&行事予告

- * **ならやま活動 (木)**
 - 6月7日 協働作業の日
 - 6月7日 田植え(予定)
 - 6月21日 春の感謝祭(カレーライス)
- * **月例研修会**
 - 6月5日(火) 葛城古道を歩く
高鴨神社・高天彦神社・一言主神社・中村家
- * **自然教室**
 - 6月6日(水) 佐保台小 放課後子供教室
 - 6月18日(月) 初夏の奈良公園 自然教室
(未定) 育英小学校 出前教室



平成30年・4月度幹事会報告

日時：3月27日(火) 14:00~16:00

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：20名 欠席者：3名

I 会長挨拶：

年度末と新年度活動について活発な発言を！

II 事務局・会計報告

- ① 会員数：151名
- ② 会計報告：29年度収支報告、予算執行状況。

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3か月及び当月スケジュールの検討と確認
2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
3. 活動報告と予告
 - ① 月例研修会 4/16 曾爾屏風岩公園花見
 - ② 歴文研修 5/22・23 古代吉備王国一泊研修
 - ③ 自然教室 4/3 奈良公園桜巡り
4. イベント（報告と予告）：詳細は会報誌掲載
 - ① 3/22 新入会員歓迎会 会員 90名参加
 - ② 5/4・5 平城京天平祭春 出し物準備
5. 助成金・交付金事業進捗状況説明
 - ① 林野庁：交付確認の報告
 - ② その他の助成金関係：コメリ交付確認の報告。
新年度はチームを作り対応してはどうか？
 - ③ アダプトプログラム活動報告。
前年度分及び新年度活動の報告提出済
6. その他

椎茸菌打ち時の子どものドリル使用についてと
子供用ヘルメット購入について意見交換

IV 広報関係：会報誌5月号編成案承認

V 喫緊案件：第17回通常総会について

- ① 平成29年度事業報告
- ② 平成30年度事業計画 配布資料参照
- ③ 臨時幹事会(4/17)開催について
通常総会での行事及び資料等の確認

VI 懸案事項：

ほのぼの基金の金品授受、鹿の侵入情報、
男性の賄い補助、新入会員研修会実施予定、
切り倒した大木の処理方法、
屋根テント設営・工作材料作成は全体で対応
以上

◆ 申し合わせ ◆

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日
19時前のNHKの天気予報(奈良気象台17時発表)
で、当該地域の午前の降水確率が60%以上
の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】
を振替活動日とします。

* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。
(事前に担当役員から連絡します。)



◆ 大和魂

司馬遼太郎の「この国のかたち」
を、テレビで見た。

遼太郎の日本人の成り立ちについての見解。
外的要因として、「外来文化への憧れが、強い
好奇心や独自の文化を導く原動力となった」と指
摘している。元来の神道と仏教の融合した「神仏
習合」などは、その典型である。

内的要因として、「鎌倉時代の武士に育まれた
『名こそ惜しけれ』の精神」を挙げ、私利私欲は
恥という考えが、大きく影響を与えたとしている。

最近の若者の考えは大きく変化しているように
見受けられるが、戦中派、それに近い年代の私た
ちは、どのように対応すべきか考えさせられる。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第196号

発行：奈良・人と自然の会

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平

表紙写真「松茸山作業終了」

4月12日に、整備の終わった松林で、松茸菌
の植え付け作業をおこなった。

5年後(10年後?)が楽しみです。

(松茸再生事業地区で)